

(様式第1号)

平成30年度第2回行政評価委員会 会議録

日 時	平成30年8月6日(月) 18:00 ~ 20:00
場 所	芦屋市役所 東館3階 大会議室
出 席 者	委員長 林 昌彦 副委員長 寺見 陽子 委 員 小川 賢一 木村 祐子 上月 敏子 村上 健 市側出席者 森田 昭弘(市民生活部長) 安達 昌宏(福祉部長) 三井 幸裕(こども・健康部長) 辻 正彦(都市建設部長) 山城 勝(都市建設部参事(都市計画・開発事業担当部長)) 岸田 太(管理部長) 北尾 文孝(学校教育部長) 田中 徹(社会教育部長)
欠 席 者	なし
事 務 局	川原 智夏(企画部長) 奥村 享央(政策推進課長) 中西 勉(企画部主幹(総合政策担当課長)) 濱口 利幸(政策推進課政策推進係長) 筒井 大介(政策推進課主査(総合政策担当)) 岡本 将太, 堂ノ前 貴洋(政策推進課係員)
会議の公開	■ 公 開
傍 聴 者 数	0 人

1 会議次第

(1) 議題

- ア 委員会に関する説明及び会議録の公表について
- イ 創生総合戦略に関する取組について
- ウ その他

2 配布資料

第2回行政評価委員会次第

資料 3：芦屋市創生総合戦略の事業実施内容について

資料 4：創生総合戦略 評価票（案）

3 審議経過

(林委員長) 定刻となりましたので、ただ今より第2回芦屋市行政評価委員会を開催します。これより議題に入る前に、事務局より会議の成立状況の報告及び会議の公開の取扱いについて説明を受けます。

(事務局：中西課長) 芦屋市行政評価委員会規則第3条第2項に「委員の半数以上の出席がなければ、会議を開くことができない」とあります。本日は6名の委員全員がご出席いただいておりますので、本委員会は成立しております。

また会議の公開につきまして、本市情報公開条例第19条では、一定の条件の場合で委員の3分の2以上の多数により非公開を決定した場合を除き、原則公開と定めております。

本日の議題につきましては特に非公開とするものはございませんので、公開するというにしたいと考えております。

(林委員長) ただいまの事務局からの説明の通り、本委員会を公開とすることに對してご異議ございませんでしょうか。

(委員) 異議ありません。

(林委員長) 了承いただきましたので、公開とさせていただきます。

これより会議の傍聴を認めたいと思います。傍聴を希望される方がいらっしゃいましたら、事務局から案内をお願いします。

- (事務局：中西課長) 傍聴者はいらっしゃいません。
- (林委員長) それでは、議題「(1) 創生総合戦略に関する評価について」事務局から説明をお願いします。
- (事務局：中西課長) 「資料3 芦屋市創生総合戦略の事業実施内容について」及び「資料4 平成30年度創生総合戦略 評価票(案)」について説明(省略)
- (林委員長) 「資料4 平成30年度創生総合戦略 評価票(案)」について説明(省略)
- それでは質疑に入ります。
- 全世代交流プロジェクトでは、キッズスクエアでのプログラムの充実などの効果がありました。他の取組や職員以外の団体からの意見はありましたか。
- (事務局：中西課長) 地域づくりを担当する職員が集まり、地域での居場所づくりや高齢者の社会参加、健康増進といったことをテーマとしたプロジェクトチームを設置しました。
- これからは行政内部だけではなく、関係団体とも連携していく必要があるため、関係団体に対してCSRや地域活動についてのインタビューから始まり、何か取り組めることがないかを協議しました。
- この中でイベントを実施したいとの意見があったため企画に取り組みましたが、天候不良によりイベントが中止となりました。
- このことを踏まえ、今年7月に第1回の打ち合わせを実施したところです。今年度は大きなイベントにとらわれるのではなく、各取組についてそれぞれの主体が展望を提案し、その個別の事業について検討していくことで繋がりを作ろうとしております。また、新たな団体を紹介いただきながら繋がりを増やしているところです。
- (小川委員) 全世代交流プロジェクトチームは市の若い職員からの発案ですか。
- (事務局：中西課長) 平成29年度からの行政改革のプロジェクトの1つとして取り組んでいます。従来の行財政改革はコストカットなどを目的としますが、今回の行政改革は仕事のやり方を変えていくことを主眼としています。そのため、今回のプロジェクトチームはトップダウン型といえます。

(小川委員) 全世代交流プロジェクトチームでグループ分けし、討議しているのですが、各グループでテーマは違うのでしょうか。

(事務局：中西課長) 平成29年度の第1回では、80人程度が集まり、その場では議論を深めることができなかつたため、5～6人程度の少人数で自由にテーマを設定し、グループワークを実施しました。

(小川委員) 昨年、神戸市では企業と新たに交わろうという取組があり、テーマを「環境」、「インバウンド」、「スポーツ」など8つ程度決めて、職員と民間企業が意見を出し合い、議論が盛り上がりました。芦屋市では1回限りではなく、継続して取り組むのですか。

(事務局：中西課長) 1回限りとならないよう、一旦出来た繋がりを継続したいと思っております。今年度は市民も含めて取り組んでいきたいと思っております。

(寺見副委員長) この取組において何かしらの結論は出ましたか。また、今年のテーマの基礎となるものはありますか。取組を継続する際には、繋がりが続くようなバックボーンが必要だと思います。

(事務局：中西課長) 平成29年度では、イベント企画が取組の1つのテーマとなりました。今年度は集まってイベントを企画するだけでなく、継続的な事業としての取組を検討しているところです。

現在、「食を通じて、地域の居場所を考えていく」「世代に応じた豊かな学びを考えていく」「情報発信について取り組んでいく」などのグループに分かれて取組を進めているところです。

(安達部長) 平成29年度は、お互いがお互いを知るということで終わりましたが、今年度は成果を作っていこうということで、取組を進めています。

また、学識の方からは、食のセミナーや子育てのセミナーなどを開催してはどうかとの意見がありました。

全世代交流や人生を豊かにする学びの場、防災、自然環境など様々な提案があり、各グループがそれぞれで進めていこうという状況です。

(小川委員) テーマごとに分科会ができたのですか。

(安達部長) はい。

(寺見副委員長) その場ですごく良いアイデアが出たとしても、予算が必要になりますが、予算関係はどうなっているのでしょうか。

(事務局：中西課長) 行政改革の取組で決まったことについては、補正も含め対応すべきものは対応する予定です。

(寺見副委員長) 国の子育ての制度においても当初のエンゼルプランでは予算が付かず、新エンゼルプランでようやく予算が付き、事業ができたという経緯があります。指標も設定して予算が付くことで実働が引き出されました。成果を求めるのであれば、こういった内容を固めておく必要があります。

ボランティアの意欲に任せるのは難しく、予算の配分といったこともなければ、事業の実施が困難だと思います。補正予算は用意されているのですか。

(事務局：中西課長) 予算を計上するには、それに見合う企画を立てる必要があります。

(寺見副委員長) 必要な経費については計上すべきです。参加された方の意見は良いと思いますが、芦屋市としても今回課題になっている空き家の活用など、具体的な提案をしても良いのではないのでしょうか。

(木村委員) 平成29年度からの行政改革において「人々の笑顔が溢れる」など施策の方向性が示されておりますが、漠然としています。保育所の問題など、具体的な内容を記載する必要があると思います。市民を巻き込むようなキャッチフレーズになっていません。

また、プロジェクトリーダーには、適正な指導者が必要です。漠然とした中で何かやりたいということで、平成29年度の全世代交流イベントを企画されたが、後から参加した人にとっては目的が不明確でした。

プロジェクトリーダーを適正に配置しなければ具体的なメリットを積み上げていくことや、市民運動を盛り上げるのも難しいです。成功例はいくつかあると思います。方向性はいいと思いますが、あまりにも漠然としすぎています。

(林委員長) この度の行政改革は、平成28年度に行政改革推進懇話会で協議した経緯があります。まず、目標が明確でなければならないことは当然で

す。しかしながら、机上で考えるのではなく、市民と一緒に考え、声を聴くところから始めるということを課題に設定しました。

まちづくりの課題は法律で画一に定められているのではないので、市民と一緒に考えて考える手法を、何をやりなさいではなく何をすべきかを共に考える手法を目的としたものです。

行政改革の将来像をスローガンのように記載しているため、これをどう落とし込んでいくのかが課題です。プロジェクトチームで行った活動を担当で総括し、評価していくことが必要です。

(寺見副委員長) こういった活動を支えていくための手当ての中で、すでに行政が実施していることと被っているものはないですか。市民が色々なアイデアを出してやることと、市民だけではできないことを把握して支援してほしいです。

子ども食堂などの居場所づくりも大事ですが、もっと斬新なアイデアで、行政にしかできないようなことをやってほしいです。そういうことに予算を計上できればよいと考えます。もちろん余計な予算を付けてほしいわけではありません。

(林委員長) プロジェクトチームの取組は引き続きやるでしょうから、検証しながら改善に取り組んでください。

子育て支援や女性活躍の視点はどうですか。

(寺見副委員長) キッズスクエア事業などは評価できます。以前、小学校区が変わってしまったなどにより、放課後児童健全育成事業が拡大していきませんでした。学年の拡充などで改善されたため、引き続き前向きに積極的に取り組んでいただきたいです。

子育てと仕事の両立を図るために、切れ目のない支援ということで、放課後児童健全育成事業の充実が必要と考えます。

(林委員長) キッズスクエアはコミスクでも人の配置などはやっていると思いますが、どうでしょうか。

(村上委員) コミスクの中でも実施しているところがあります。

(林委員長) 小学校での場所の確保は課題ということですが、新たな方法で確保したという事例はありますか。

(田中部長) 平成29年度から、放課後児童健全育成事業の中で、夏休みに民間事業者の運営により実施しました。キッズスクエアと放課後児童健全育成事業は主たる目的が異なります。

放課後児童健全育成事業は、校区内で実施したいと考えておりますが、各施設の状況により実施できない校区があります。長期的には、校区内であっても学校外で実施するとなると、予算や場所の問題があります。

少子化の問題もありますが、児童数の変遷は把握しております。一方で共働きの家庭の増加傾向は把握しにくく、必要に応じてやり方を工夫しながら状況を見極めていきます。

キッズスクエアと放課後児童健全育成事業を組み合わせる中で、ある程度の対応は可能と考えます。新たな展開は、校区を越えて夏休みでの対応ができたところです。

今年度は、朝日ヶ丘幼稚園で他の校区の児童を受け入れました。平成29年度の夏休みの事業がきっかけとなって、取組ができました。補完的にキッズスクエアを充実させる中で全体として対応していきます。

(林委員長) 平成29年度は、夏休み限定の取組だったということですか。

(田中部長) はい。今年度からは通年で行っています。

(寺見副委員長) 評価できます。しかしながら、子どもの目線で考えたとき、校区外で実施することで仲間関係が切れてしまうのが懸案です。健全育成に寄与できるように取り組んでください。

(田中部長) 他の校区に移る児童には入会基準を作っています。中学校区も視野に入れながら待機児童対策として取り組んでおり、同じ中学校に行くこともあるので、これを考慮したうえで進めています。

(林委員長) 校区を超えた子どもの交流、子どもの年齢に合わせた交流もあるのではないのでしょうか。そういう配慮はされていますか。

(田中部長) はい。

(林委員長) キッズスクエアは、平成29年度初めて全学校で実施に至ったということですか。

- (田中部長) その通りです。
- (林委員長) 早期に実施できたところと、そうでない学校の違いは何ですか。
- (田中部長) 順番に進めており、学校により施設の状況が異なるため、関係者と協議を進めてきたところです。学校ごとに運営会議を実施していません。
- (林委員長) 運営会議の参加者はどのようなメンバーでしょうか。
- (田中部長) 学校、事業スタッフ、PTA、コミスク、学校支援ボランティア、青少年育成課です。
- (林委員長) 地域で支える仕組みになっているわけですね。
- (田中部長) はい。
- (林委員長) そういった仕組みや組織の活性化が大事です。決まった人が支えるのでは疲弊するため、サポーターをどのように増やしていくのですか。
- (田中部長) 今のところ、新しい主体が入ってくるというわけではありませんが、PTAは毎年メンバーが変わります。企業の方には、運営会議ではなく、居場所のほかに体験プログラムの提供という関わりを持っていただいております。
- (上月委員) 市立幼稚園・保育所のあり方について、今後統廃合していくのでしょうか。市民に分かりやすい説明を継続して行って頂きたいです。
- 読書のまちづくりについてです。新学習指導要領において、外国語科が新設されます。先生方の研修も大事ですし、どのようなプログラムにするのかのカリキュラム・マネジメントも大事です。学校図書館の中に日本の絵本だけではなく英語や外国語の絵本を整備することやCDをかけて聴くことができるなどの環境づくりも大事になってきます。国際文化都市芦屋としてぜひ先生の研修と並行して、実施していただければと思います。
- そうした環境づくりを提案するようなモデル校を作ってほしいです。大学の入試の在り方も変わろうとしています。小学校から打って出るような取り組みを実施してほしいです。
- (林委員長) 小学校からの外国語活動について、どのように検討していますか。

(北尾部長) すでに移行措置をとっています。ALT（外国語指導助手）としてネイティブスピーカーの方に入ってもらっており、リスニングなど、カリキュラムを考えながら実施しているところです。

本格実施はこれからであり、全小学校で進めています。

(林委員長) 外国語での読書について、教材の準備を考えていますか。

(北尾部長) はい。英語の教材を先進的に入れている学校図書館もあります。

(上月委員) 精道小学校が、タブレット端末を活用した授業に先進的に取り組み、全校に広がっていったように、モデル校を作っていかなければ変わらないのではないのでしょうか。

(北尾部長) 検討委員会を立ち上げ、検証しながら進めています。また、打出教育文化センターでは実践的な事例を集中的に作っており、2段構えで進めていきます。

(上月委員) 精道小学校でのタブレット導入により全校に広がっていったように、モデル校を作っていかなければ変わらないのではないのでしょうか。

(北尾部長) 読書の推進校と連携して、外国語との関係をどういった風に持っていけるのか研究していきたいと思います。

(林委員長) 市立幼稚園・保育所のあり方についてはどうですか。

(岸田部長) 現行の幼稚園は8園ありますが、今後5園になります。この計画の最大の目的は保育所待機児童の解消です。幼稚園は、園児の数が少ないため、こども園とすることで、待機児童の対策をしていきます。平成34年度までの計画となっています。

(三井部長) 幼稚園3園がなくなるわけではなく、精道、西蔵は市立認定こども園ということで、幼稚園と保育所を統合し新しく作ります。朝日ヶ丘については民間の認定こども園を誘致します。平成29年3月に「あり方」を発表して以来、多くの説明会を実施し、今年度は事業ごとに説明会を開催しています。

(林委員長) この取組の結果、待機児童をゼロにする見通しはありますか。

(三井部長) 406人から491人の受け入れ増を見込んでいます。すでに4月には潮見圏域で、浜風幼稚園跡地の認定こども園など2園できており、保育

定員は135名と90名です。市内全体で98名の保育所部分を増加させました。

(林委員長) その結果として待機児童は、ゼロとなりますか。

(三井部長) なかなか難しいのは、他市でも待機児童ゼロ宣言をすれば、希望者が増えたりしています。本市の場合は元々幼稚園ニーズが高かったのですが、現状では保育所のニーズが高くなってきて待機児童が減らない状況です。保育所を増やした後の状況を見る必要があります。

(林委員長) 子育て世代の流入は良いことです。女性活躍には保育所の整備が根幹です。待機児童をゼロにしようとするればニーズが増えるのは、魅力が高まっているということで、プラスに捉えることができます。

(村上委員) 私立の保育所は公立と比べて料金が高いでしょう。

(三井部長) 収入が同じであれば、保育料は同じです。

(村上委員) 公務員の給与水準は高いのですが、民間の給料は良いことはなく、保育料の負担が大きいとの話を聞きます。

(三井部長) 保育料の金額は市民税の金額に応じて段階的に決めています。幼稚園も昔は一律でしたが、今は同様に段階的に設定しています。

(林委員長) そのことも含めて、子育て支援の現状を記載できればと思います。

統廃合については様々なご意見がある中で、保育に対する需要は高まっています。本来はすべての方にサービスを提供すべきですが、着実に進めてきて頂いていると考えております。

他にご意見はありますか。

今回出された意見については、事務局でまとめて、「資料4 平成30年度創生総合戦略 評価票(案)」に追加したうえで、後日各委員への送付をお願いします。各委員は追記があるかご確認をお願いします。

その後は委員長一任でお願いしたいと思います。

それでは、議題「(2) その他」ですが、事務局から何かありますか。

(事務局：中西課長) 第1回及び第2回の会議録並びに評価票の案につきましては、整い次第ご確認依頼をさせていただきますので、宜しく申し上げます。

その後、内容を確定したうえで公表させていただきます。

また、本日までの議論をまとめた意見につきましては、事務事業評価報告書（平成29年度決算評価）の巻末に掲載する予定となっております。

（林委員長） 本日が本委員会の最終となりますので、各委員からご意見やご感想などをお願いしたいと思います。

（小川委員） 着実に良くなっていると思います。行政だけではなく、地域を巻き込みながら、取り組んでください。

（木村委員） 市営住宅の問題など、高齢者の問題にも取り組んでいただきたいです。行政の意識が変わってきていると感じました。あとは職員一人一人が責任を持って仕事に取り組んでいただきたいと思います。また、市民から声掛けをしていくことも必要だと感じました。

（上月委員） 芦屋のまちの空気感を大事にしてほしいです。地域や学校園などと協力して取り組んでください。

（寺見副委員長） 芦屋は空気感が良く、色々な場面で職員の方が真摯に取り組んでおり、苦勞をしていることも理解しています。行政が市民目線で取り組もうとしているところは評価できます。

（村上委員） 芦屋市の行政を知ることができ、勉強になりました。

（林委員長） 平成29年度から行政評価委員会を実施しており、今年度の委員会において目に見えて変わってきたと感じます。行政だけではできないことがあるため、市民が参加し、市民に見せていく必要があります。活動が進んでいることは評価できますし、事業に関わっている皆さんには敬意を表したい。今後も継続して活動の質を上げていってほしいと思います。

以上をもって、芦屋市行政評価委員会を閉会いたします。ありがとうございました。

以 上